

## 派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2019年7月24日

氏名			
所属	人間科学部 ( ) 研究科	人間科学科・専攻	4年次
派遣先大学	廈門大学		11ヶ月間

以下の項目に入力・選択をしてください。なお、この調査は個人情報（名前等）を削除した上で、これから留学する学生並びに留学を考えている学生に公開させていただきます。

### I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ( )
2	住居形態の詳細を教えてください。	例) ルームメートの人数と国籍、部屋数、間取り (2LKD)、広さなど ( 二人部屋 韓国人のルームメイト 1フロアにつき2つ共用シャワーがある 1フロア8人 )
3	入居時手続き	例: Housing Office でデポジットを払い、学生寮の受付で鍵を受け取る ( 到着日に事務室にて 3000 元支払う。※1 学期 1000 元、1000 元のデポジット )
4	費用 (月額)	180 元/月 (通貨を入力) (食費 食費含まない/月)
5	支払方法	スマホ決済 (例: 月ごとに現金で、クレジットカードなど)
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房 <input type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input type="checkbox"/> その他 ( )
7	住居選択方法	<input type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ( )
8	周囲環境	例: 近隣のスーパーなどの大きさ、駅・バス停からのアクセス、など ( 学校内にスーパーマーケットや食堂がある。ただ、学校の周辺は田舎なので何もない。都市に行くのにバスで1時間かかる。 )
9	アクセス	例: 大学からの距離・アクセス方法、駅・バス停からの距離・費用 ( 主な交通手段はバス 学校内は広いので自転車で移動 )
10	留学中の住居に関して アドバイス	(今後留学をする学生に対して): ( 学校の宿舎が学校外のアパートに比べ安全面、衛生面ともに良いと思う。 )
11	引越された方は引越し先の住居形態を記入してください。	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ( )
12	詳細を教えてください	例) ルームメートの人数と国籍、部屋数、間取り (2LKD)、広さなど ( )

## II. 通信環境について（該当の項目を選択、または入力してください。）

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	例：ショッピングモールの電気屋に行きSIMを購入 （到着日に学校内でSIMを購入 ※ただし、SIMロックが解除されていないスマホでは現地のSIMが使えないので、必ず出国前にSIMロックを解除すること。中国圏に留学をする人は以下の点に気をつけてください。中国の電波では、ライン、インスタグラム、Facebookなど国外のアプリに規制がかかっており使えない。なので、事前に日本でVPNをダウンロードしておく必要がある。中国で携帯を新たに購入しようと考えている方は、中国のアプリストアだと国外アプリがダウンロードできないことがあるので、購入時に確認するべき。）
4	自宅のインターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）
5	大学内インターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）

## III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均）		※現地通貨で記入。（ ）内に通貨単位を記入すること。	
1	宿舍費	180	（元）/月
2	食費	900	（元）/月
3	交通費	30	（元）/月
4	通信費	20	（元）/月

5	娯楽費	400 (元) /月
6	図書費	0 (元) /合計
7	学用品 (教科書など)	30 (元) /合計
8	被服費	0 (元) /合計
9	医療費	0 (元) /合計
10	雑費・その他	100 (元) /合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳 (留学準備期間含む) ※日本円または現地通貨で記入。		
11	出願料・宿舍デポジット	1000 (元) /合計
12	ビザ申請関連費	800 (元) /合計
13	航空券代 (休暇時旅行費用は除く)	6000 (元) /往復
14	その他	(通貨入力) /合計
15	留学全日程に要した総額 (概算)	800000 (円) /合計
お金の持って行き方		
16	<input type="checkbox"/> 現金 (渡航時: 0円) <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード (銀行名: jcbのクレジットカード UFJのクレジットカード) <input checked="" type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
17	現地で銀行口座開設	した
18	手続き方法・利点・欠点	<p>カードキャッシングについて利点は、大量の現金を持たずに済むので安心。手数料が送金よりも安い。すぐに引き出せる。欠点は、カードを無くしたとき、又はカードが使えないときにお金が引き出せない。また、学生の場合は10万までしかキャッシングができない設定になっていたたり、そもそもキャッシング自体が出来ない設定になっていることがあって、それを知らずにカードを持って行ってしまうと現地で使い物にならない。</p>
19	お金に関するアドバイス (今後留学をする学生に対して)	<p>お金の手続き方法に関して、私が一番確実だと考えるのはとりあえず初期費用と1ヶ月分の現地の生活費を日本であらかじめ現地通貨に換金して持っていく方法である。その後の生活費は、デビットカードやクレジットカードのキャッシング機能を使って引き落とす。ただ、カードは注意が必要で、無くしたとき又はカードが現地で使えない時のリスク管理を予めしておくべき。例えば、海外キャッシングできるカードを2.3枚持っていく。いざとなったとき日本から送金してもらえるように親や信頼出来る人にある程度のお金が入った口座を預けておく。など対応策を考えておいた方がよい。海外キャッシング対応のカードでもatmによっては使えないことがある。また日本のように至る所にatmがあるわけではないのも考慮しておくべき。また、いくら注意していてもカードを失くしてしまったり、盗難にあったりする可能性もあるのでカードばかりに頼るのも危険。</p>

#### IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類（例：L2プラン）	東京海上日動 (11か月分で110000円)
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	はい
3	(2で「はい」を選んだ場合のみ記入) 海外旅行（留学）保険の適用を受けましたか？	受けた
4	(3で「受けた」を選んだ場合のみ記入) どのような方法で適用を受けましたか？	その他 その他（保険会社の現地スタッフが同行して支払いをしてくれた）
5	(4で「受けることができなかった」を選んだ場合のみ記入) 適応されなかった理由はなんですか？	
6	日本から持参した方が良かったと思う薬などはありますか？理由はなんですか？	生理痛の痛み止め

#### V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	虫除け、メモ、ペン、日本のおかし、日本のごはん、綿棒、パスポートコピー、クレジットカードよいどめ、胃薬、むひ、ティッシュ、タオル×3、ますく、風邪薬、いたみどめ、化粧水乳液クレンジング洗顔コットン、化粧品、ひやけどめ、シャンプー、トリートメント、ボディソープヘアクリーム、コンタクト、シェーバー、充電器類、ドライヤー、トートバッグ、歯ブラシ、衣服類 等
2	現地で購入したもの
	布団類、枕、ハンガー、洗剤 等
3	(自分は持っていかなかったが)日本から持っていったら便利だと思ったもの
	パソコン

#### VI. 留学先で困ったこと

最も困ったことはお金についての問題である。お金を引き出す方法をクレジットカードのキャッシング機能に頼りすぎていて、日本から現金を持って行かなかった。クレジットカードが現地のATMで使用できなかった。また、出発前に中国ではほとんどの支払いを携帯決済で行い、クレジットカードはほぼ使えないということ把握していなかった。私の場合、到着日に一銭もなく、優しい日本人の学生が5万円ほど貸してくれたので何とか生活できた。その後親からすぐに送金をしてもらい、生活費はまかなえた。さらにクレジットカード会社に連絡し状況を説明したところ、カードの設定の問題（詳しくはⅢ-18を参照）でキャッシングができなかったことが判明し、すぐに設定を変更できたのでそれ以降はカードキャッシングが出来た。現地でのお金関連のことは確実に確認してから出国すべき。ネットで調べて安心するのではなく、実際にその国に生活している人、または最近まで生活していた人を自分で探して、支払い方法について詳しく聞いておくべき。

#### VII. その他、後続の学生へのアドバイス

私にとってこの1年間の留学生活は非常に充実していて、生涯忘れることのない特別な思い出になりました。このような時間を過ごせたのは「周りの支え」があったからだと思います。友だち、先生方、家族は私が困っているときにはいつも手を差し伸べてくれました。一緒に笑ったり泣いたり、とにかく真剣にまっすぐに、じっくり時間をかけて人と向き合うことができたからこそ、こんなに充実した日々を過ごせたのだと思います。私が後続の学生に向けて伝えたいことは、もちろん留学生活で勉強は大切であるが、それ以上にそこでしか出会うことのできない人々との関わりを大切に充実した時間を過ごしてほしいということです。皆さんにとって素敵な留学生活になることを心より祈っております。特に中国圏に留学する方で、質問などある方は遠慮なく安島 (yy60346@gmail.com) にご連絡ください！できる限り力になります。

ご協力ありがとうございました。留学状況のより良い把握のため、**留学志望者の参考となる写真**（大学・授業の様子、設備、街、宿舎などの写真）を添付して提出してください。

## 神奈川大学派遣交換留学修了報告書

所 属	人間科学部	学 科	人間科学科	4 年次
氏 名				
派遣先大学 (国)	厦門大学 (中国)			
所属プログラム・ 学部・研究科	海外教育学院	履修言語	中国語	
留学期間	2018年9月～2019年7月			
報告書提出日	2019年7月22日			

### 学修について

#### 1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
【記入例】 Fall Semester	9月21日 ～1月21日 (14週)	1月24日 ～2月1日	英語力の結果、本科の授業履修が認められたので、教務課でシラバスを貰いオンラインで登録。オリエンテーション期間として最初の1週間は履修登録を加除できる。XX先生に相談し、……
秋学期	9月17日 ～1月11日 (16週)	1月14日 ～1月18日	テストの結果に基づいてクラス分けをされた。私は1年下という基礎を勉強するクラスに割り振られた。
春学期	3月18日 ～7月19日 (18週)	7月22日 ～7月26日	Hsk5級取得のレベルに一番適している2年下のクラスに決めた。新入生はテストの点数でクラスを決める。前学期からいる生徒は基本的には前学期のひとつ上のレベルになるが、前学期の期末テストの点数が基準を満たしていれば自分でクラスを決められる。

#### 1.2. 履修科目・内容 (数字は半角で直接入力してください)

学期	履修科目名	合計時間 (内訳)	履修内容・授業での取り組み ※欄は自動で大きくなるので、十分に記入してください。
【記入例】	International	30時間	講義が月曜日に90分、演習が木曜日に90分。内容として

Fall Semester	relations IIB	1 (時間/回) × 3(回/週) × 10(週)	は講義は……。演習は……。中間試験・期末試験の勉強としては……。レポートは……。 <b>合計時間の計算方法は[⑥]【参考資料】授業時間数について】をご参照ください。</b>
		120 時間	
秋学期	初級汉语(二)	1.5(時間/回) × 5 (回/週) × 16 (週)	授業の概要は、教科書の内容に沿って文法・単語を確認し、最期にこの文法や単語が使われている長文を読解する授業である。 テストは授業で扱った文法問題が出題される。範囲が広がったので復習が大変だった。
		48 時間	
秋学期	初級汉语口语(二)	1.5 (時間/回) × 2 (回/週) × 16 (週)	授業の概要は、教科書に載っている単語をまずはじめに確認して、次にその単語が使われて会話文を先生に続いて読むというのが主な内容である。また、学習した会話文の内容についての自分の考えを中国語でまとめて発表したりする機会もある。 テストは二人一組で会話文を作って先生の前で発表する。
		48 時間	
秋学期	初級汉语听力(二)	1.5 (時間/回) × 2 (回/週) × 16 (週)	授業の概要は、教科書のリスニング問題を各自でヘッドホンをつけて回答し、最後に答え合わせをするといったものである。答え合わせのときに先生が補足の説明をしてくれる。 テストは以前に授業で扱った教科書の問題が出題された。
		135 時間	
春学期	中级汉语(二)	1.5(時間/回) ×5 (回/週) × 18 (週)	教科書の文章問題を通して、そこに出てきている単語や文法を勉強するものである。進度はそれほど速くはないと感じている。だいたい3回の授業(1コマ90分)で1単元を終えるペースである。内容が難しいので、先生はゆっくりと説明をしてくれている。 テストは授業で扱った文法問題に加えて hsk5 級の読解問題が出題される。
		54 時間	
春学期	中级汉语口语(二)	1.5(時間/回) ×2 (回/週) × 18 (週)	内容は教科書内の会話文に基づいて先生が重要な部分を説明するものとなっている。この内容を使ったペアワークもある。進度はゆっくりである。4回の授業で1単元を終えるペースである。は教科書内の会話文に基づいて先生が重要な部分を説明するものとなっている。この内容を使ったペアワークもある。 テストは授業で扱った教科書の本文のテーマに対する自分の考えを先生の前で述べるという形式。
		54 時間	
春学期	中级汉语听力(二)	1.5 (時間/回) × 2 (回/週)	内容は最初に単語の説明を受け、教科書のリスニング問題を解き、終わった段階で先生が解説をするというものである。 テストは hsk4 級の内容が出題された。
		54 時間	

		×18 (週)	
春学期	中級听说強化	54 時間	内容は教科書のテーマに沿って、グループに分かれて話し合いディスカッションを行なう。習った文法や表現を使い、一人ずつクラスメイトの前で自分の意見を発表する機会がある。テストは特になし。
		1.5(時間/回)	
		× 2(回/週) × 18(週)	
		時間	
		(時間/回)	
		× (回/週)	
		× (週)	

※表の行が足りない場合は、必要な数だけコピー&ペーストで増やしてください。



## 1.2 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について（授業全般を通して記入）

学修面で一番心掛けていたことは、勉強した文法や単語を実生活ではどういった場面で使えるか常に想像しながら勉強したことである。この点を念頭に置いて、繰り返し CD を聴いたり、音読をしたり、シャドーイングをしたりして勉強を進めていた。予習、復習においても常に CD を聴き、音読をした。

留学以前は、単語を繰り返し覚えることや、書き取りや読解といった hsk のテスト対策ばかりをしていて、音読や CD を聴くことをほとんどしていなかった。中国に来てからは、こういった資格の勉強よりも、音読や CD を聴くことに重きを置いて勉強するようになった。というのも、中国語を流暢に話すクラスメイトの大部分はこのような方法で勉強していたからである。

語学資格取得に向けた勉強ももちろん重要であるが、私個人としては音読と CD を繰り返し聴くことが一番早く確実に身につく方法だと思った。

## 1.3. 語学力について（留学前や留学当初に比べての成果、留学中の取り組みを、内容ごとに分けて記入）

語学力については確実に進歩したと自信を持って言える。留学開始当初は本当に挨拶のみしか出来なかった。しかし、現在では会話をしたり、ドラマを字幕なしで観たり、本を読んだり、など生活上困らないレベルの中国語は習得出来たと思っている。目に見える結果としては HSK5 級を留学期間中に取得できた。

ただ、実際に中国人と話す際には発音が間違っていて伝わらないことが多々ある。

## 1.4. 研究について（※大学院生のみ記入）

## 2. 留学の成果を振り返って

### 2.1. 学修の成果(学修内容と取り組みから得た成果を、内容ごとに分けて記入)

廈門大学の授業は大まかに、文法、リスニング、会話の三部分で構成されている。

文法については、この一年で本当に多くの文法や単語を覚え、身につけることが出来たと思う。こうした成果は、普段の生活の中でも実感していて、今では中国語の新聞や本を理解できるレベルに達することができた。

リスニングについては、授業で扱った内容を中心に繰り返し CD を聴くことによって、日常生活で大体のことは聞き取れるようになった。また、hsk5 級の対策の際に 1 ヶ月間毎日 hsk5 級のリスニング部分の問題を解いた。これはとても効果的で、今までは何となく勘で聴き流していたことが多くて本質的には理解できていなかった、聴き取れていなかったということを知ることができた。この方法を通して自分の弱点、自分がどういったときに聴き取れないのかを把握することができたとても効果的な勉強であった。

会話については、授業で扱った内容の CD を聴きシャドーイングをして口に出して練習をした。こうしたことにより、定着して日常の中でもこのフレーズが自然と出てくるようになった。

### 2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス (内容ごとに分けて記入)

学修面での反省点は、中国人と関わる機会が非常に少なく、自分からそういった機会をつくることができなかったことである。そのため、私の中国語は主に一緒に勉強している外国人のクラスメイトと話すためのツールであった。外国人同士で中国語を使って話す分には問題なく会話ができるが、いざ中国人と話すとき会話が成立しないことが多々あった。

留学志望者の皆さまへのアドバイスとして伝えたいことは、授業以外で現地の人と現地の言葉を使って話す機会を自分で積極的につくることの重要性である。私の周りにも積極的に自分からこういった機会をつくっている学生はたくさんいた。こうした学生は語学の進歩も著しく、さらに教科書には載っていないような中国人独特の表現までも習得し、まるで中国人と変わらないようなテンポで話していた。私自身、語学の進歩は教科書の勉強や資格の勉強では補えない部分が大きいと実感した。よって現地の人と積極的に関わりを持つことをオススメする。

### 2.3. 留学生活で得られたもの (学修を除く、留学生活で得た成果)

この留学生活で得られた最も大きな成果は、語学の進歩ではなく自分自身の価値観、考え方の変化である。

留学以前は、私は非常に独りよがりな考え方をしていた。自分が決めたことや意見に絶対的な自信を持っていた。自分自身が強くありたいという気持ちが非常に強かった。その分困難に直面したときに、弱音を吐いて、本音で相談できる相手が少なかった。私自身、このような態度を他人に見せることを嫌っていた。

こうした考え方がこの留学生活を通して 180 度変わった。このきっかけを私に与えてくれたのは、厦門大学で出逢った私の親友のエジプト人だ。彼女は非常に素直に気持ちをぶつけるタイプの子だ。困ったことがあれば、周囲の人に躊躇なく助けを求めることができる。さらに、友人同士でトラブルが起こった際には自分の意見をしっかりと伝え、時には涙を流して本音でぶつかり合う。彼女は自分の気持ちに素直なので思ったことをすぐに口にするとし、その時に自分がやりたいことを優先する。こうした態度にしばしば周りの人は振り回されていた。私もその中の一人だった。ただ、彼女はみんなに好かれる人気者だった。その理由は、きっと彼女本来の思いやりと常に感謝を忘れない態度であると私は思った。彼女は常に周囲の友人、家族に対して感謝の気持ちをもっていた。彼女は特に家族に対して感謝の気持ちをすごく持っていて、毎日ご両親に電話で感謝の言葉と今日の出来事を報告していた。また、帰国する際には家族へのお土産が大きなスーツケース 1 つを占めていた。彼女は常に気持ちをさらけ出し、自分の意見をしっかりと相手に本気でぶつかり、ただその中にいつも自分に関わるすべての人への感謝の気持ちを忘れずにもっている、その気持ちもしっかりと口に出して伝える。このような強くて優しい人だった。

私も彼女のようなエネルギッシュで強くて、さらに自分に関わる人への感謝の気持ちを素直に伝えられるような大人になりたいと思うようになった。

#### 2.4. 留學生活での反省点ならびに留學志望者へ生活面のアドバイス（内容ごとに項目を分けて記入）

留學生活での反省点は、中国人と関わる機会が少なかった、自分からあまりこうした機会を掴み取ろうとしなかった点である。そのため私の中国語は中国人に伝わらないことがしばしばある。しかし、私自身この点は反省点ではあるがそれほど後悔している訳ではない。

というのも、留學生活はあっという間なので私は何に一番時間を費やすか、ということを決めていた。それは、中国人のみと関わるのではなく、中国人を含めた世界各国の人と共に時間を共有することであった。その結果、中国人との関わり方の機会が少なくなってしまった。

留學志望者の皆さまへのアドバイスとして私が伝えたいことは、留學とはその国の言語を学ぶことだけが目的ではないということである。もちろん語学の学習は最も大きな目的であるが、しかし、留學という素晴らしい機会を活かして、日本に居ては関わることをないたくさんの人と積極的にコミュニケーションをとること。これが今後の自分自身の人生をより豊かにすると私は考えている。

※作成できましたら国際センターまで、Feelnote のプロジェクトよりご提出ください。

※ファイル名を、神奈川大学派遣交換留學修了報告書（派遣先大学・氏名）に変えてください。